

2 月第 3 日曜日は、例年十勝管内忠類村の全道そり大会の開催日である。今年も予定通りに開催され、小生も村長からの誘いもあり、個人的に参加した。忠類村の本大会は、極めてユニークである。「そり」滑りの大会であるが、使用する「そり」は、ダンボール製という条件がついている。滑走距離 200m 程のスキー場の斜面において、ダンボード競技部門、スピード競技部門、パフォーマンス部門の 3 種目で競われる大会である。

ダンボールを使用するのそり大会は、忠類村が始めたものであり、今年は第 20 回大会と言う記念大会であった。同種の大会は留辺蘂町で実施しているとの事であった。

久々に我を忘れて笑わせて貰い、参加者のアイディアに感嘆した一日であった。



宇宙戦艦大和(パフォーマンス部門)

60 組近い個人又は Gp が大会にエントリーしていた。遠くは忠類村の友好都市である埼玉県上尾市のチームの参加もあったが、殆んどは十勝管内からの参加者である。自衛隊関係も 2 個ほど。(ウルトラのチームは何か賞を貰ったようだが..)

大会を主催するのは、地元商工会の青年部である。青年部も近年では、メンバーが激減して 10 名に満たないとかで役場や地域の人が手助けし、村ぐるみの大会と言った方が正鵠を得ているかも知れぬ。

ダンボード参加者は、矢張りと言うべきか比較的若い者が多いけれども、そのスピード部門或いはパフォーマンス部門への参加者は、40, 50 歳台の小父さんや小母さんと小さい子供さんが多く、毎年参加している人達が意外に多い。中年パワー全開か。幼き頃を思い出して雪と戯れるひと時があつてしかるべきなのだろう。

例年参加している人は歳々工夫を凝らしているようだ。それを一年間の楽しみにしているようでもある。

中でも圧巻と言うか、楽しかったのは、パフォーマンス部門である。船長沖田十三以下乗組員に扮した総勢 10 名の宇宙戦艦ヤマトは、その精巧さにおいても、規模においても他を圧倒しており、金賞を獲得したが、当然といえば当然だろう。

ラーメンどんぶりのそりも面白い、黄色いケミカルテープのラーメン、人が扮した葱やそ

の他の具もあり、転倒したどんぶりから麺がこぼれ出てしまったのには会場大爆笑だった。

口を大きく開けたジョーズに今にも食い千切られんばかりの裸の船乗りは、ゴール直前に海に投げ出され必死に泳いでいたが、寒かったろう。努力賞にも値した？

スタート地点から急勾配で 2m 余り、中間地点に一寸したジャンプ台、他は緩やかな斜面であるが、板がやや傾いているのか側壁の雪壁に接触して壊れるそりも時にあり、ジャンプ台で、思い切り宙返ってしまうダンボードや創作そりも見受けられる。

ダンボールで作成したとはとても思えないようなものも結構多い。スノーボードならぬダンボードも、何枚も重ね合わせたのであろう、結構丈夫そうだし、カラフルに塗装してあるものも多い。問題は強度と共に操縦性である。突き出した足で操縦をしている者もいたが、操縦性を向上させる為にそり前部にダンボールパイプ等を使って操縦装置を工夫したものもあり、多彩である。

そり大会を楽しんだ後は、近くのナウマン温泉も良い。麦飯石を使った露天風呂や発汗作用に効果的だといわれる上ノ国産のブラックシリカを使ったサウナ等に趣向が凝らされている。義経の財宝が眠ると言われる丸山に、竹下内閣のふるさと創生一億円事業により、千数百 m 掘削し、自噴した湯を約 3 km の道程を引いて温泉とし、隣接してナウマン象記念館を建設し、道の駅ともリンクさせたプランは大したものである。ナウマン温泉は、村長が、『美人の湯ですよ』と自慢するだけあって、今日も小生の疲れた肌もつやつやしている。湯量も豊富であって、循環型ではないので、レジオネラ対策上もバッチリだ。

師団管内各地には、忠類村のようにその地域の特性に応じた各種のイベントが計画されている。それらに参加して地域の人と交流し、ともすれば閉じこもりがちな憂鬱な冬を楽しむことが重要である。